

新編武藏國風土記稿

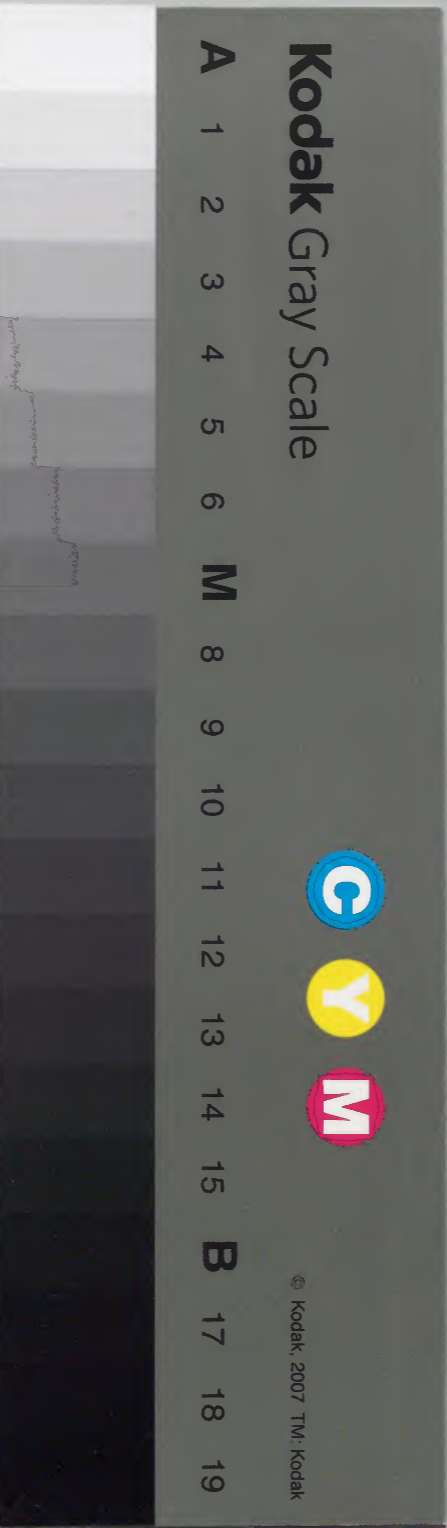
荏原郡

卷之四十六

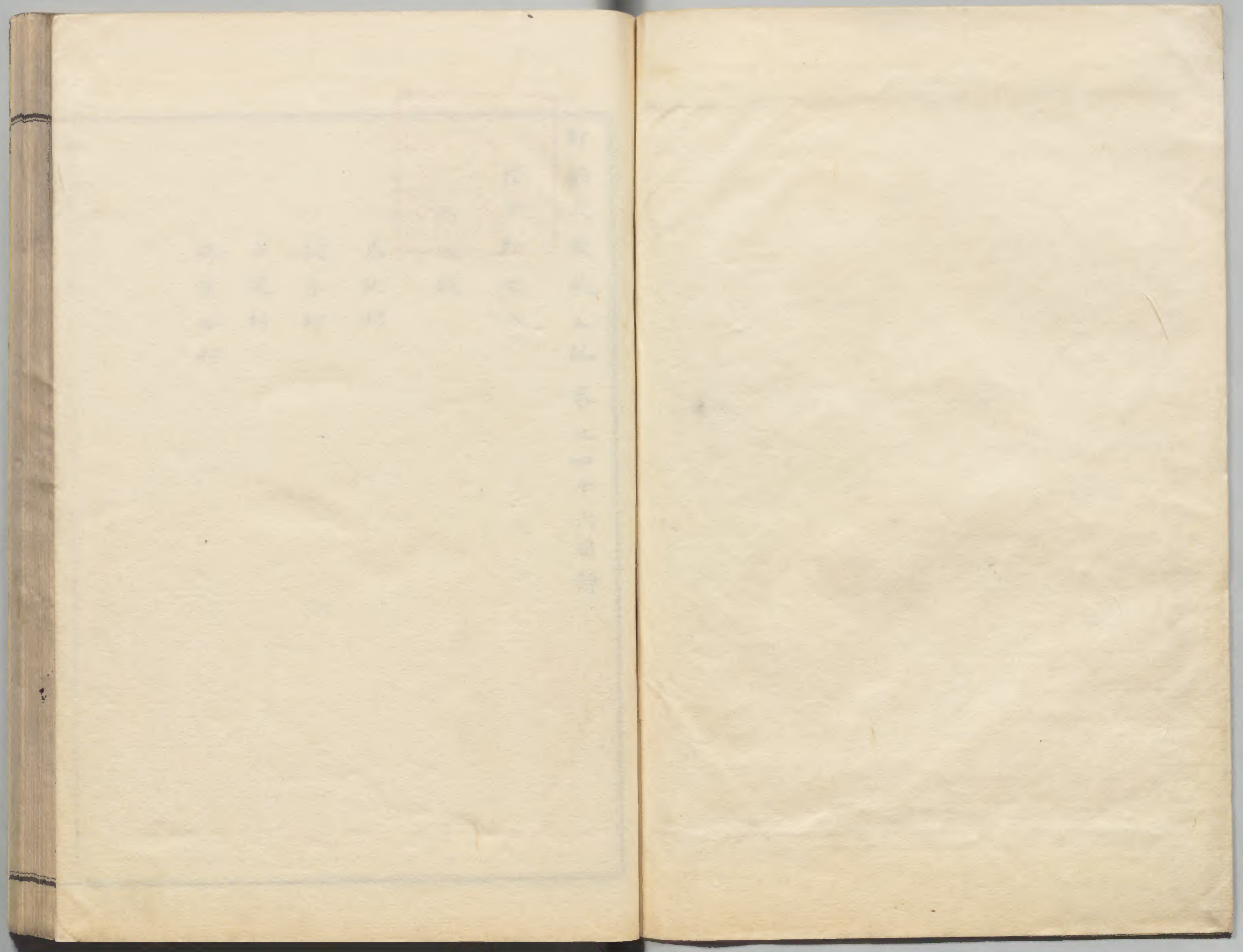
和書門			
二五五	一	二五五	一六五
冊	架	函	號

內閣文庫			
七三	二五五	一六五	和書
函	冊	號	類
一八			
架			

內閣文庫		
番號	和	16510
冊數	255 ( 47 )	
函號	173	210









新編武藏風土記卷之四十六目錄



荏原郡之八

領

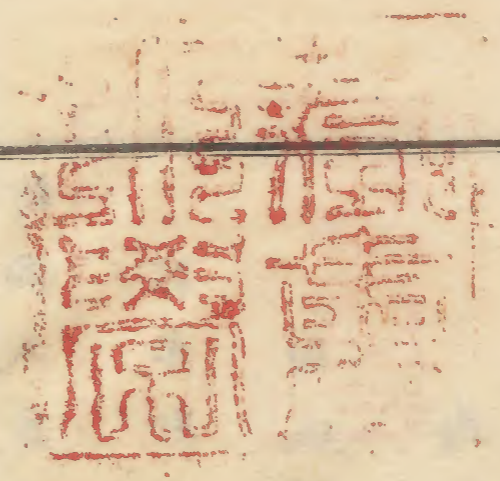
馬込村

桐ヶ谷村

中延村

碑文谷村





新編武藏風土記卷之四十六



馬込領之八  
馬込村

淺草文庫

馬込村ハ。郡ノ中央ニアリ。古ハ駒込トモ唱ヘシト  
云。サレト小田原分限帳ニ。馬込ト記レタレバ。馬込  
ノ方古キ唱タルベシ。相傳フ元禄ノ頃ニテハ。麻布  
領馬込組ト號スルコト。此邊ノ村々皆同シカリシ  
ト。然ルニ今ハ總テ其唱ハ用ヒスレテ。夕バ馬込領



トノミ稱スルコト。領名ノ條ニモ辨シタル如シ。村  
内ノ家數三百七軒。東ハ大井市倉ノ二村ニ隣リ。西  
ハ池上村ニマジハリ。南ノ方ハ桐ヶ谷村ニ續キ。北  
ハ大井上蛇窪中延ノ三村ニ界フ。東西十三町南北  
十五町餘。此所ハ土地高低甚ク多シ。ユヘニ土俗ニ  
八九十九谷アリト稱ス。或ハ十三谷トイヘル小名  
モアリ。其谷々ノ間ニアル平地ニ陸田ヲヒラケリ。  
是ヲ下リ畑ト呼ブ。水田ハコトニ少シ。ソレモ天水  
ヲ湛ヘテ沃ギ入エヘ。常ニ用水ノ足ラサルヲ患ト  
ス。土性ハ赤土ニレテ。砂交レル所モアリ。或ハ黒キ

野土ノ所モアリ。何レモ播種ニ宜シカラス。コハニ  
稻毛道ト云往還アリ。村内ヘカ、ルコト十三町餘。  
東ヨリ西ヘ貫ケリ。或ハ是ヲ品川道トモ呼ブ。品川  
宿ヨリ橘樹郎稻毛領ヘノ往來ナル故ナリ。當村ノ  
開ケタルハイツノ頃ニヤ定カラズ。永祿ノ頃ハ  
梶原助五郎カ領地ニレテ。其所務三十二貫六十文  
ノヨシ。小田原分限帳ニ載タリ。此餘小田原代官所  
モアリシニヤ。天正ノ頃小田原分國境目普請人夫  
催促ノ文書アリ。今村民半左衛門ガ家ニ藏セリ。其  
文ニ



京瑞信物も浪子も  
於法境同普信来り付  
万一人是或人珠簀負し物  
十日後用之念来りし小田原  
一集台より出也也何  
り候

天正十六年

北條氏虎印

成子

正月七日

了

白姓也



天正十八年小田原北條家滅亡ノ頃。梶原モ所領ヲ失ヒ。頭テ御打入アリシ時。二百五十三石餘ノ地ヲ木原因幡吉次ニ賜ヘリ。其子孫今ノ專三郎白長ニ至ルニテ。世々知行セリ。其餘ハ御料所ニシテ。元和ノ頃ヨリカ伊奈半十郎忠常預リ奉リシト云。然ルニ寛永年中御料所ノ内。三百八十八石ノ地ヲ割テ。台徳院殿御霊屋料トシテ。増上寺へ御寄附アリシヨリ。今モ替ラズ。其餘御料所ノ方ハ。舊ニヨリテ伊奈半十郎ガ子孫代々支配ヒシ所ナリシガ。寛政年

中ヨリ大貫次右衛門ガ御代官所トナレリ。又村ノ西北ノ方許多ノ地ヲ隔テ。池上雪ヶ谷碑文谷衾石川中延等六ヶ村ノ間ニ狭リテ。當村ノ地アリ。千束村ト稱シオノヅカラ別村ノ如クナレト。全ク村ノ飛地ナリ。東西四町南北八町許。高札場三ヶ所。御料所及ビ御霊屋料ト私領ト三ヶ所ニ別レテ。谷名主ノ構ノ前ニ夕テリ。一ハ東ノ方ニアリ。一ハ北ノカタニヨリテアリ。一ハ西ノ方ナリ。

小名



千束村 村ノ飛地ヲ呼リ。土人ノ話ニ此  
 地ハ村内ニテモイト古ク開ケレ所十  
 リト云。オモフニ古此邊千束郷ト唱ヘ  
 レ由云傳フレハ。其名残ニシテ。古ク開  
 ケレト云。エトサモアルベシ。コ、ニ人  
 家三十軒許住ス。  
 根小谷 土人云。古此所ニ梶原氏が屋敷  
 アリシユヘ。今ニ此地名アリト。然ラハ  
 根小屋ト記スベキヲ。谷ノ文字ヲ用ユ  
 ルハ誤ナルベシ。

宮下谷 中丸谷 塚越谷 上臺 中井谷 東谷 窪 堂寺谷  
 昔村内ハ幡社ノ別當長遠寺。此  
 地ニアリシユヘ。此地名起リニナリト  
 云。



松原谷

北窪

寺郷

山川

千束池 村ノ東南ノハテニアリ。近村所々ノ谷合ヨリ流レ出ル所ノ清水。落入テ湛ヘタル池ナリ。池ノ大サ。乾ヨリ癸ノ方ヘワタリ二百間ホド。坤ヨリ艮ノ方ヘハ百八十間許モアルベシ。村老ノ話ニ。此池古ハ猶ヒコカリシニ。其頃近村モイハタ開ケサリシニヤ。當村ノニニテ用水ニ引用セ

タリ。何ノ頃ヨリカ池上村ト組合持トナリテ。今ハ早魃ノ備ヘニ。平常ニハ堰ヲイレテ水ヲ湛ヘ置ノニナリ。サレト廣キ池ナレバ。東ノ方堤方女塚等ノ村々ニテ。此池ノ餘流ヲ千束ナゲレト稱シテ。田間ノ用水トナセリ。又霖雨ノ時ハ。時トシテ水溢シ。近キアタリノ田地ヲヒタスニ至レリト云。

神社

八幡社 地頭元除六歩村ノ飛地ノ内。千束池ノ側ニアリ。古松樹數株繁茂シテ社頭ヲ覆ヒ。又池ニ臨



ニシ地ナレバ。景色モツトモ勝レタリ。本社ハ二  
間四方ニシテ。拜殿ニ間半ニ三間。前ニ石階十六  
級アリテ。其下ニ鳥居ニ基ヲタツ。勸請ノ年歴詳  
ナラズ。今村内ノ鎮守トセリ。祭禮年々九月廿三  
日。社傍ニ庵室アリ。觀行院ヨリ僧ヲ置守ラシム。  
末社

稻荷社 小祠ナリ。

神明社 除地九步村ノ東方ニ當リテ坡上ニアリ。此  
所ハ増上寺領ノ内ニテ。カノ領内ノ民ノ鎮守ナ  
リ。鎮座ノ年歴詳ナラズ。本社ハ六尺ニ八尺ノ宮

作ナリ。拜殿ニ間ニ三間。前ニ石階二十五級アリ  
テ。其下ニ鳥居ヲタツ。祭禮ハ年々九月十七日。神  
樂ヲ神前ニ奏ス。百姓組合持ニシテ。別當寺ハ祭  
祀ヲ司ルノミ。

末社

辨天社

稻荷社

別當泉生寺 年貢地一段社地ニ續キテアリ。昔

洞宗。村内萬福寺末。天照山ト號ス。開山ハ天永  
源堯和尚。兼應二年正月廿日寂ス。第二世ヲ起



岩傳宗和尚ト號ス。當寺ヲ起立セシ事。實ハ此  
 傳宗ノ功トレト。自ラ開山ノ位ニ居ルコトヲ  
 憚リテ。其師源亮ヲ請ヒテ開山トセリ。本尊河  
 彌陀如來ノ立像ヲ客殿ニ安ス。  
 淺間社 除地八畝。村ノ西方。坡上ニアリ。社ハ一間  
 四尺ニ二間ニ尺。社前ハ切岸ケハレクシテ。壁ノ  
 如クソバタチ。古木森々トシテ社頭ヲ擁ス。坂ノ  
 下ニ老杉ニ株並ヒ立リ。ソレヨリ數歩ヲ隔テ鳥  
 居ヲ建。勸請ノ年歴詳トラス。祭禮ハ年々九月二  
 十七日神前ニテ神樂ヲ奏ス。宗福寺持。

天神社 除地六歩。村ノ東方ニアリ。勸請ノ年代  
 詳トラス。本社八尺ニ九尺。拜殿二間ニ三間。萬福  
 寺ノ預リニテ。年々九月廿八日神樂ヲ社前ニ奏  
 ス。百姓十郎左衛門持。  
 稻荷社 除地一歩。村ノ南方ニヨリテアリ。六尺ニ七  
 尺ノ祠ナリ。勸請ノ年歴ヲ傳ヘズ。圓乘院持。  
 稻荷社 除地十歩。同邊ニアリ。六尺ニ七尺。是モ勸請  
 ノ年歴ヲ知ラズ。百姓七左衛門持。  
 伊勢宮 除地二歩。村ノ東北ノ方ニアリ。社ハ六尺  
 四方。是モ勸請ノ年歴ヲシラズ。長遠寺持。



熊野社

除地三村ノ東南ノ方。丘ノ上ニアリ。本社

尺ニ八尺。拜殿二間ニ二間半。前ニ石階十七級

アリテ。其下ニ木ノ鳥居ヲタツ。祭禮ハ年々九月

廿四日神樂ヲ興行ス。是モ勸請ノ年代ヲレラス。

百姓組合持。

羽黒権現社

十歩真地小名根小谷梶原屋敷ノ内ニ

アリ。社ハ二間四方。拜殿二間ニ三間。勸請ノ年代

ヲ傳ヘガレドモ。古木枝ヲタレライト古キ社地

ト覺ユ。是ヲニヨリテ思ヘバ。イカサニモ館ノ

アリシ頃ヨリノ社ナルベシ。祭禮年々九月廿九

日。長遠寺ニテ其祭事ヲ司リ。神樂ヲ。神前ニ奏ス。

百姓縫左衛門ガ持ナリ。

諏訪社

除地一畝村ノ東南ノ方ニアリ。六尺ニ五

尺ノ祠ナリ。勸請ノ年月等總テ傳ハラス。百姓六

左衛門持。

八幡社

社地一段村ノ中央。木原専三郎白長ガ采

邑ノ内ニテ。社地モ地頭ヨリ所務ヲ免除スト云。

勸請ノ年歴詳ナラス。今村内ノ總鎮守トス。神鉢

正八幡ニレテ。甲冑ヲ帯シ馬ニ乗タル画像十

リ。本社二間半ニ三間。拜殿二間ニ四間。前ニ石ノ



鳥居ヲタツ。祭禮年々九月十五日。イカナルエハ  
ヤ。昔ヨリ村内小名十三谷ト云所ノ百姓等。ヨ  
リツドヒテ神樂ヲ奏スルヲ永式トス。

末社

稻荷社 僅ナル祠ナリ。

疫神社 コレモ同シ。

別當長遠寺 六畝地社地ノ北ニ隣レリ。新義真言

宗。山城國醍醐三賢院ノ末。海岳山大乘院ト號

ス。村ノ舊記ニ。定海ト云僧當寺ヲ草創シテ。後

元弘二年ニ寂セリト見ユ。サレバ此人開山ナ

ルベシ。今寺ニテ開山トスルハ。定尊法印ナリ。

此法印其事歴寂年ヲ傳ヘガレバ。何ノ項トモ

云ガタケレト。思フニ中興ノ僧ナルニヤ。後元

祿ノ頃快慶法印ト云僧ノ住シ時。當寺ヲ興起

シテ檀林寺格トセシニヨリ。今ハ此法印ヲ中

興開基トス。客殿六間四尺餘ニ八間半。本尊不

動尊ノ坐像ヲ安ス。門ハ客殿ノ正面ニアリ。海

岳山ノ三字ヲ扁ス。

鐘樓 九尺四方。鐘ニ銘アリ。其末ニ延享四年

ト彫ル。全文ハ考證ニ益ナケレハ畧セリ。



寺院

萬福寺

町餘

二村ノ東方ニヨリテアリ。昔ハ郡中

大井村ノ内ニアリシガ。海邊ナレバ波濤ノ患ヲ

避テイツノ頃ニカ當所ニ移リシト云。曹洞宗。相

摸國徳翁寺末。慈眼山無量院ト號ス。寺傳ニ梶原

平三景時カ開基セシ由ヲイヘリ。モシ然ラハ文

治建久ノ頃ノ創建ナルベケレト。疑ヘレ。大檀那

梶原三河守カ墓アルニヨリテ。附會セシナルベ

レ。ソレヲイカニト云ニ。平三景時ハ鎌倉ニ住セ

リ。當國多磨郡ノ内抽井領ト號スル所ハ。皆景時

カ領地ノ跡ナリト。土地ニテモ云傳。フカノ領内

元ハ玉寺村ハ幡宮ハ。景時カ勸請セシ所ニシテ。

其側ニ景時カ屋敷ノ跡モアリ。是ヲ以考フルニ。

景時モシ一寺ヲモ建立セントセバ。其住所及ビ

所領ノ地ヲ置テ。遠ク當所ヘ起立スベケンヤ。寺

ニ傳ハル所イブカシキ事ナリ。ヨリテ按ニ小田

原北條家人。梶原三河守當寺ノ大檀那ニシテ。此

人ヲ萬福寺ト號セリ。此人當寺ヲ中興セシユヘ

カヨリ。梶原ノ家號ヨリ誤テ平三景時カ開基ト

セシナラン。其誤シモ又ユヘアルニ似タリ。境内



ニタテル。梶原氏ノ碑陰ニ。梶原三河守影時。同子  
助五郎影末云云ノ文字ヲ刻シタルニヨレバ。  
三河守カ先祖景時ヲ慕ヒテ其名ヲ冒シ。其子助  
五郎モ。又平三ガ子源太景季カ名ヲ冒シタレド。  
猶文字ヲハ。憚リテタガヘシナラン。古キ人ハカ  
カル例多シ。鎌倉公方永安寺殿ノ名ヲ氏満トシ  
ウセシニ。堀越御所政知。其跡ヲ慕ヒテ。後ニ一タ  
氏満ト改ノラレキ。是ヲ評シテ先祖ノ名ヲ冒ス  
コトハ。其餘慶ヲウケントテノ事ナリト今川記  
ニイヘリ。其餘猪俣小平六ガ子孫。世々先祖ノ名

ヲ用ヒテ範綱ト號セシ事モアリ。三河守父子モ  
カ、ル類ナリシヲ。不文ノ僧等タバ平三ガ著名  
ナルノミヲ知テ。イカニモ己ガ寺ノ古キ世ヨリ  
起リシ事ヲ傳ヘンガタノ。カク附會セシニアラ  
ズヤ。然ルニ天正十六年ノ文書ニ其文セハ下ニ。梶原  
三河守景朝ト記シタル時ハ。此影時影末トエリ  
シモ。其世ノ人妄作ニ出シモ知ベカラズ。開山ハ  
大覺公大和尚。寂年ヲ失ス。寺傳ニヨレバ。平三景  
時ト同時代ノ人ト云ンカ。サレト開闢ノ事ハ。鎌  
倉時代ノ事トモ定ノガタキコトハ。始ニモ云如



シ。又此開山ヲ大覺和尚ト云テ以按ニ唐僧道隆  
和尚ハ寛元四年舶来シテ。後鎌倉ニ来リシトキ。  
北條時宗崇信シテ。カノ地ヘ一寺ヲ建立セリ。後  
時頼時宗深ク歸依セシアリ。武相總ノ間ソコ  
ハクノ寺院ヲ建立セシヨシ。郡中海晏寺モ其一  
ナリト。彼寺ノ記録ニ見エタリ。道隆和尚示寂ノ  
後。謚ヲ賜ハリテ大覺禪師ト號シタレバ。コ、ニ  
イヘル大覺公トイヘルハ。若カノ勅賜ヲ誤リ傳  
ヘテ。稱號トセシモ知ルヘカラズ。モシ然ラバ。當  
寺モカノ時頼建立アリシト云内ノ一寺トセン

カ。又按ニ寺號三河守カ法名ヲモテ。名付シ時ハ。  
開闢ノ頃ハサセル寺院ニモアラテ。寺號モアラ  
ガリシニヤ。中興開山勅特賜德光禪師明堂和尚。  
天正十九年四月十六日寂セリ。是三河守ガ歸依  
セシ僧ナルベシ。總テ中興トイヘルモノ恐ラク  
ハ當寺ノ開基開山ナルベシ。其後慶安二年  
大猷院殿ヨリ寺領六石四斗ノ御朱印ヲ賜ハ  
リシヨリ。今ニ其地ヲ領セリ。  
表門 坂ノ中伏ニアリテ。南ニ向ヘリ。西柱ノ間  
九尺。前ニ石階二十一級。門内ニモ二十六級ア



リ。

客殿

石階ヲ距ルコト二十間餘。八間ニ六間四尺。本尊ハ三尊ノ彌陀。三國傳來ノ金銅佛ナリト云。中尊彌陀ハ長二尺九寸。左右勢至觀音ハ共ニ長一尺九寸五分。二像トモニ普通ノ状トハ自カラ異ナリ。寺僧ノ話ニ。此本尊ノ銅像。其中ウツロナルモノトハ見エズ。重ナ十貫目ニ餘レリトイヘリ。側ニ達磨ト大權トノ像。及ヒ中興開山徳光禪師ノ木像ヲ安ス。又側ニ古キ厨子アリ。ツノ内ニ立烏帽子ヲ戴キ。直垂ヲ着

シテ坐シタル状ノ木像ヲリ。長一尺一寸許。側ニ木ニテ作レル筋骨ヲ置。此曹ハ立烏帽子ノ上ヘ戴クヘキヤウニ作りテアリ。像ハスヘテ埃ニツミタレド。面鉢勇威アルガニ作りナセリ。寺僧ハ是ヲ梶原平三ガ像ナリト云。ナレト木像ヲ納メシ龕中ニ。位階ヲ安シテ。牌面ニ萬福寺殿三州大守香山不陰大居士ト記セリ。始ニモ云如ク。梶原三河守ハ北條氏直ノ家人ニテ。當所ノ領主ナレバ。此人ノ像ナル事疑フヘクモアラヌヲ。是モ愚蒙ノ僧徒。景時カ著名



ナルニヨリ。誤リ傳ヘテ真ヲ乱ルニ至ルコト  
歎息スベシ。三河守ガ事ハ。猶古蹟ノ條ニ出シ  
タレバ。照シ見ルベシ。

寺寶

三光阿彌陀如来

一軀

右大將頼朝守本尊ナリト云傳フ。

鬼子母神像

一軀

日蓮上人ノ護持佛ナリト云。

韋駝天像

一軀

弘法大師ノ作ナリト云。

鞍

一口

總躰金ノ梨子地ニシテ。海ナシノ鞍ナリ。前  
後ノ輪ヘ布袋和尚ノ繪ヲ。高蒔繪ニシタレ  
ド。ソレモミナスレヤツレテ。古色ナルコト  
見ルベシ。其サニ普通ノ鞍ノゴトクニシテ。  
後輪ヤ、ソバタテリ。寺傳ニハ梶原景時ガ  
戦陣ニ用ヒシモノナリト云。サレドコレモ  
三河守ガモノナルヘシ。下ノ鐙轡モ同ジ。乘  
鞍ノ圖左ノ如シ。



鐙

一掛

總黒塗ノ五六鐙ナリ。幅四寸五分。サスガ子  
無。左右ニシテ其大様ハ普通ノ鐙ト異ルコ  
トナシ。

轡

二掛

今世ニ用ヱル。洗轡ノ如キモノナリ。

螺

一口

周圍一尺六寸。吹口鐵ヲ以カガル。是モ景時  
所持ノ螺ニテ。右大將頼朝富士ノ牧狩ノ時。  
用ヒシモノトモ。又ハ石橋合戦ノ時用ヒシ





モノトモイヘリ。何レモウケカタキ説ナリ。  
サレト總躰古色ニシテ。永祿天正年代ノモ  
ノトハ見ユ。

膳椀

十具

是モ古物ナリト云傳フ。サレトイカナル人  
ノ用ヒシト云コトモ傳ヘス。イツノ頃ニヤ  
毀子テ數タラス。總テ朱塗ニシテ今用エル  
所ノ品ヨリハ形大ナリ。本椀ハ徑四寸七分。  
高サ二寸九分。イト底高サ一寸許。其餘ノ椀  
ハ今ノ世ニ用エル所ノモノト。サレテ替ラ

ス。膳ハ大小アリ。大ハ一尺二寸四方。小ハ一  
尺四方。共ニ隅取角ノ折敷膳ナリ。

文書

ソノ文左ノ如シ。

一通

定

一 寺々所々ノ如シ  
大井所分乃福寺。



一、夜以侍之。時長。  
 一、少之。應之。  
 一、戒洋。之。其。其。  
 一、平林。平林。平林。  
 一、家。家。家。家。

建久二年三月

賴朝

和國嘉久  
 梶原嘉久

右ノ文中ニ。取次ノ人ノ名。二人共ニ同キモ  
 疑フベシ。又文中ニイヘル平林吉平家次ガ  
 子孫。今ニ村内ノ百姓トナリテアリ。里正ノ  
 話ニカレガ家ニ近キ頃ニテ賴朝ノ文書ヲ



藏セシカ。其筆意墨色ヨリ。紙ノ性ニ至ルニ  
テ。疑フベクモアラヌ古物ナリシト。今其家  
ニツキテ尋ヌルニ。サキツ頃父母ヲ失ヒレ  
ニ。子ナルモノハ未ダ知カリシカハ。其紛レ  
ニ失ヒテ。今ハナシトイヘリ。此寺寶ノ文書  
ハ。ソレヲ寫シ誤リシモノカトイヘリ。  
間魔堂 表門ノ内ニアリ。二間半ニ二間。  
秋葉白山聖天合社 客殿ノ南ニアリ。三座ノ内  
聖天ハ印子ノ像ニシテ。梶原景時ノ守本尊ナ  
リト云傳フ。

梶原景時墓 客殿ノ西。丘ノ上ニアリ。五輪ノ石  
塔ニシテ。法名卒日等ヲモ記サズ。寺傳ニ平三  
景時ガ墓ナリトイヘドモ。是モ三河守ガ墓ナ  
ルベシ。景時ハ駿州狐崎ニテ誅セラレシナレ  
バ。コハニ葬ルベキノイハレナシ。モレ景時當  
寺ノ開基大檀那ナレバ。後ニ菩提ノ夕ノ境内  
ニタテシ碑ナリトイハバ。イハシク。トニカク  
ニ慥ナラヌコトナリ。  
梶原某墓 同所ニアリ。是モ五輪ノ塔ニテ。面ニ  
繁室淨榮居士ト刻シ。其側ニ慶長十一丙午年



六月九日ト記ス。是ハ梶原助五郎カ墓カ。未ダ其正シキコトヲ知ラズ。碑陰ニ云。梶原三河守影時。同梶原助五郎影末石塔。従先規雖有之。為敵乱。今度安倍楢左衛門家久為改者也。此梶原孫々代々。馬込村慈眼山萬福寺檀那。依今建立之者也トアリ。文字湮没シテ。ヤウヤク讀フクヘキハカリナリ。此碑陰ノ文ニヨリテモ。此二基ハ三河守影時カ父子ノ為ニ建シユト知ルベシ。外ニモ慶長ノ頃建シ男女ノ墓アレト。其人ヲ傳ヘス。

橋本但馬守教與墓

境内南ノ方ニアリ。碑面ニ銀宋浄金禪定トアリ。側面ニ元和九癸亥年九月廿六日ト彫ル。此但馬守ハ何人ナリシヤ詳ナラス。今村民庄三郎ト云モノ。カレガ子孫ナリト云ノミニテ。世系舊記等モ傳ヘガレバ。總テ考フルニ由ナシ。

裏門 表門ノ西ノ方ニアリ。南向ナリ。西柱ノ間

七尺。

観音堂

境内七段五步此堂アルヲ以地名ヲモ観音山ト呼ブ。村ノ東南ノ方ニテ。萬福寺領ノ内ナリ。



二間半四方ノ堂ニテ。本尊ハ右大將源頼朝。平生  
髻ノ中へ結コノテ。守護佛トセシ靈像ナリト云  
傳フ。萬福寺持。

宗福寺

一境内ニ貢地村ノ北ノ方ニアリ。曹洞宗萬

福寺ノ末ナリ。金峰山ト號ス。開山ハ天永源亮和

尚。天正四年正月廿日示寂。又一ノ傳ヘニ。村内八

幡ノ別當泉生寺ノ開山源亮當寺ヲモ開闢セリ

ト。サレトカノ源亮ハ。兼應二年正月廿日寂スト

イヘバ。自ラ別ノ人ナルベシ。タニク名ノ似タル

ト。示寂ノ月日ノ同キニヨリテ。カ、ル説モ起リ

ニナラシ。本尊阿彌陀如来。客殿ニ安ス。

白山推現社 境内ニアリ。

圓乘院

境内除地一村ノ南ノ方ニアリ。新義真言

宗。村内八幡ノ別當長遠寺末。陽岳山ト號ス。開山

ハ天永法印トイヘト。年代ヲモ傳ヘズ。中興開山

秀英僧都。大永二年二月二日寂セリ。本尊不動明

王ヲ客殿ニ安ス。

觀行院

境内二十二年貢地一村ノ中央ニアリ。是モ圓乘

院ト同門徒ナリ。潮音山ト號ス。開山ハ栄定法印。

天正十年寂ス。本尊不動客殿ニ安ス。



持明院

境内年貢是モ同邊ニアリ。觀行院ト同門

徒ナリ。金剛山下號ス。開山ハ定祐法印。兼應四年

寂セリ。本尊大日如来。客殿ニ安ス。

藥師堂

除地八歩。村ノ東北ノ方ニアリ。昔ハ此地ニ

光善寺ト云寺アリ。此堂ハ即カノ寺ノ本堂ナリ

シガ。イツノ頃カ村民等ト争ヒ起リテ。フヒニ訟

ニ及ビシトキ廢寺トナリ。境内ノ地ヲ削ラレテ

僅ニ堂ノ夕午夕ル所ハカリヲ存セリトゾ。堂ノ

大サ三間ニ二間四尺。前ニ石階三十級。カノ光善

寺ノ本寺ナレハトテ。今ハ長遠寺ノ預リトナリ

タレド。修造以下ノ事ニ至リテハ。總テ村持ナリ  
トイヘリ。

明行寺

境内年貢地村ノ東ノ方ニアリ。新義真言

宗。長遠寺ノ門徒ナリ。三峯山ト號ス。開山ハ榮祐

法印。寛永十六年寂ス。本尊不動明王。客殿ニ安セ

リ。

閻魔堂

年貢地村ノ西南ノ方ニアリ。堂ノ大サ三

間半ニ三間。側ニ庵室アリテ。堂ヲ守ル僧住セリ。

百姓半七郎ガ持ナリ。

墳墓



梶原塚 村ノ中央ニアリ。高廿九尺許ノ石塔ヲテ  
リ。寛永十九年十一月朔日。武州馬込住人奉行聖  
□□上人ト刻セリ。土人或ハ平三景時カ墓ナリ  
ト云。是モ例ノ附會ナルコトハ。萬福寺梶原カ墓  
ノ條下ニ辨セシ如シ。此塚何人ノ墓ト云コトハ  
知ベカラザレドモ。當所ノ舊主梶原氏カ一族ノ  
内ノ墓ナル事ハサモアリナシ。

古蹟

梶原屋敷迹 村ノ中央ニアリ。此屋敷迹アルエハ  
ニ地名ヲモ根小谷ト云。三面ハ崖ソハ夕千テ。背

後ノ方僅ニ平地續キタルニ。塚ヲ設ケシ跡ナト  
見ニ。今ハ熊野ニ社ノ構ヘトナレリ。社ハ中腹ノ  
地ヲ平ゲテタテリ。竹木茂リテ其地形ハ大ニ變  
シタルト。今モ僅ニ館迹ノサシ見ルベシ。相傳フ  
北條家分國ノ頃。領主梶原三河守住セシト。三河  
守カ事ハ。世系事迹トモニ失シテ。考フベカラス。  
萬福寺境内ニタテル碑陰ニ。梶原三河守影時。同  
助五郎影末トアリ。是ニヨレバ。三河守カ子ヲ助  
五郎トイヒシナリ。小田原分限帳ニ。當村ノ地頭  
梶原助五郎トアリ。分限帳ハ永祿二年ノ改定十



レバ。助五郎ト記セシハ三河守カ初ノ名ナルカ。  
モシ然ラハカレ三河守ト改メテ。後其子又父カ  
初ノ名ヲツキテ助五郎ト稱セシナラン。萬福寺  
ノ傳ヘニモ。三河守没セシ年月ヲ失シタレバ。今  
ヨリ考フベカラズ。村内ニ傳フル所。天正ノ末ノ  
文書ニ。其文下梶原三河守朝景トアリ。コレ分限  
帳ニイヘル助五郎カ後ノ名ニシテ。萬福寺境内  
ニタテル景時ノ墓ト云モノハ。此人ノ墓ナルベ  
シ。サレハ其子モ又助五郎トイヒシ人アリテ。  
其人ノ碑モ萬福寺ニタテシカ。カクイヘ下。其年

歴ヲハカルニ。猶考ノ穂ナラザルニ似タレド。レ  
ハラク記シテ後ノ考ヲ一ツ。此餘分限帳ニ梶原  
日向守ト云人ヲ載タリ。又天正八年武田勝頼駿  
州へ出張ノ時。北條家ノ海賊。梶原備前守景興。及  
ヒ其子兵部大夫景光ガ戦艦ヲ出セシコト。小田  
原記ニ見エタリ。コレヲノ梶原モ皆三河守カ一  
族ナルカ。是モ又考フベカラザレド。何レモ名ニ  
景ノ字ヲ用ヒタレバ。昔ノ平三景時ガ庶流ナル  
ニヤ。又豊島郡梶原堀之内ナトニモ。梶原ガ事蹟  
ヲ傳ヘタリ。合セ考フベシ。此館迹。今ハ村民縫左



衛門ガ持ナリ。又此縫左衛門ガ宅ハ。是ヨリ縫ニ  
隔タリテ。東ノ方ニ當レリ。其所ハ梶原ガ藏屋敷  
ノアリシ地ナリト云傳ヘリ。是モカノ一族ガ居  
リシ所ナラン。

舊家

百姓市右衛門 御靈屋料ノ百姓ナリ。今ハ卑キ農  
民ノコトナレハ。姓モ傳ヘラ失ヒリ。氏ハ高山ト  
イヘリ。カレガ先祖某ハ。録倉公方家ノ項モ當所  
ニ住テ。コ、ヨ、録倉ヘ大番ヲ勤ノレト云。其項  
帶レト云カ一腰ヲ藏ス。長ニ尺三寸許。直燒ノカ

ナリ。スベテ錆ヲ生ジタレハ。其作ノ様モ見分カ  
タシ。持モアレ。是ハ後ニ改メ造リシモノト見  
ユ。サレド其改メシモ百年以上ナルベク覺ユ。天  
正ノ項先祖最原三河守トイヒシガ。時ノ地頭梶  
原三河守ニ仕ヘシ時。梶原己ガ名ト同キニヨリ。  
姓名ヲ改メ高山彌七郎景重ト名ノラセ。又家紋  
ヲモ與ヘリトソ。其時ノ文書ハカレガ別家幸右  
衛門ガ家ニ藏ス。幸右衛門モ當所ノ農民ニテ。今  
御靈屋料ノ里正ナリ。カノ姓名ヲ改メシ時。與ヘ  
シト云證文左ノ如シ。



天正十六代子奉

十二月十三日

梶原之河与驹京

高山弥七良友

京重

是ヨリ最原ヲ改テ高山ト號セリ。此後ヨリ命ヲ市右衛門及ヒ幸右衛門ノ二家。共ニ血脉相續セ

ウ。此市右衛門カ構ヘテ見ルニ。西ノ方ニ岡アリテ古木立茂レ其地ニ稻荷ノ祠アリ。祠ノ中ニ新碑ニアリ。其一ハ年號ヲ記サズ。一ニハ文明十七年トアリ。此祠古キ勸請ノ由。棟札モアリシガ。何ノ頃カ失セリト云。側ニ柀ノ古木アリ。幹ノ太サ三圍ニ餘リ。地上僅ニ三尺許。上ヨリ三ツニワカレタリ。其一枝ノ太サ。最大ナルモノ一圍半ニ餘リ。其細キモノモ。ノグリニ尺四五寸ニ及アベシ。此木ノ北ノ方ニモ。又柀ノ老樹アリシガ。六七十年前ニ枯木トナリシト云。其木ノ朽残りシモ



ノ板ノ如ク立リ。其モトヨリ葉生セシモノ。今一  
園ニアール程ノ木ナリ。是ヲモテ考フルニ。此地  
ノ古クヨリ。社地ニテアリシ事知ルヘシ。  
百姓四郎左衛門 先祖ヲ渡邊對馬守正久ト云。其  
年代ヲ傳ヘズ。此人後ニ改テ四郎左衛門ト稱セ  
リ。此餘對馬守ガ事蹟ハ。サラニ傳ヘズト云。思フ  
ニ正久ハ。管領家ナドノ舊臣ニシテ。世ヲ農耕ノ  
間ニ適レタル人歟。カ、ルユヘシモテ。コトサラ  
ニ其事實ヲ傳ヘサルナラン。又家傳ニ云。四郎左  
衛門正經。年月ヲ傳ヘズ。廿八日ニ没セリ。行年ハ

九十七歳トアリ。其子四郎左衛門正清。永祿二年  
六月六日没ス。其子四郎左衛門正覺。又對馬ト稱  
稱セリ。寛永七年五月廿四日没セリ。此後子孫血  
脈相續シテ。今ノ四郎左衛門ニ至リテ六世ニ及  
ベリ。中間支族ワカレテ。村内ニ住スルモノ六七  
軒ニ及ブト云。今家ニ粟田口在國カ作りシカラ  
藏ス。其制古様ニシテ。永祿天正以上ノモノト見  
ユ。是先祖對馬守ガ佩カナリト云傳フ。



桐ヶ谷村

桐ヶ谷村ハ。當郡品川宿ヨリ西南ノ方。一里半餘ニア  
リ。家數十五軒。東ヨリ南へハ市倉村ニ界ヒ。正南ハ  
堤方村ニ接シ。西ハ池上村ニ隣リ。北ハ馬込村ニ及  
ブ。東西十五町。南北八町餘。水田少ク陸田多シ。土性  
ハ赤土野土錯リテ。耕作ニ宜カラズ。元禄八年織田  
越前守檢地ス。御入國ノ後山本藤右衛門知行ト  
ナリ。ソレヨリ今ノ又十郎ニ至ル一テ。子孫世々襲  
領ス。



神社

稻荷社 村ノ北ノ方。畠中ニアリ。村ノ鎮守ナリ。社  
ハ九尺ニ二間。前ニ鳥居ヲタツ。鎮座ノ年月詳ナ  
ラズ。祭禮年々九月廿二日。市、倉村長松寺持。

中延村

中延村ハ。郡ノ中央ニアリ。家數百十八軒。東ハ上下  
蛇窪村ニ隣リ。南ヨリ西ハ馬込村ニ界ト。北ハ戸  
越小山ノ二村ニ接シタレド。飛地アタリテ界  
定カラズ。大抵東西ハ十二町。南北ハ十三町餘。陸  
田多クシテ。水田ハ僅ニ谷々ノ間ニ狭ニレリ。土地  
スヘテ黒野土赤土交リテ。穀物ニ宜シカラス。村内  
二條ノ往還アリ。其一ハ相州中原へ通フ。是ヲ中原  
道ト名ツク。北ノ方戸越村ノ界ヨリ。南ノ方馬込村



ノ方へ貫ケリ。一條、池上道ト呼フ。是ハ中原道ノ  
岐路ナリ。村ノ北ノ方戸越村ノ界ニテ別レ。ソレヨ  
リ東南へ向ヒ。馬込村ヲ經テ池上村ニ達ス。村老ノ  
話ニ。此道古ハ奥州へノ海道ニシテ。矢口村ノ方へ  
續キタリシト。當村開墾ノ年代ハ其詳ナルコトヲ  
傳ヘス。村内ハ幡社ノ縁起ニ。文永年中荏原左衛門  
義宗ト云人。當所ヲ領スト見エタレバ。其頃ヨリ前  
ニ開ケシ。村落ナルコト知ベシ。當時已ニ中延ノ名  
モアリシニヤ。佛祖九老傳ニ。中延郷ト見エタリ。サ  
レトソレモ僅ニ田野開ケテ。猶閑地モ多カリシ十

ルハシ。ソレヨリルカニ下リテ。小田原北條家ノ  
頃ニ至リ。弘治二年當所ノ山野ヲ開墾セシエト。村  
民所藏ノ文書ニ載ス。永祿二年改ノ北條家人所領  
役帳ニ。中ノ部品川筋島津孫四郎ト記セシハ。當所  
ノ事ナルベシ。御入國ノ後ハ御料所ニテ。伊奈半  
十郎支配ス。寛永二十一年及ビ寛文中檢地アリ。其  
後モ元祿八年織田越前守檢地ス。又何ノ頃ニカ村  
内五十五石ノ地ヲ松風十左衛門ニ賜ハレリ。正保  
ノ頃ノ記録ニハ。已ニ松風ガ采邑ノ事見エタレハ。  
是ヨリサキニ賜ハリシ事ニ知ラレ。此松風ガ家ハ



寛文四年廢セラレシニヨリ。再采邑モ収公セラレ  
キ。同十六年

台徳院殿ノ御靈屋料トシテ。百二石餘御寄附アリ。

此餘江戸愛宕下天徳寺領一石餘。及ヒ赤坂種徳寺

領僅ハカリアリ。天徳寺へ賜ハリシハ元禄十二年

ノ事ニテ。種徳寺へ賜ハリシハ享保二年ノ事ナリ

トイヘリ。以上ノ寺領ヲ除キテハ。昔ノ一ニテ伊

奈半十郎御預ノ地ナレバ。世々支配セシニ。寛政ノ

始ヨリハ大貫次右衛門光豊カハレリ。

高札場 村ノ中程ニアリ。

小名

本村

セド原

大原

天沼

丸山

龍合

原野

萱野。處々ニアレトモ。皆僅ヅノ地ナリ。

芝原 上ニ同ジ。



菽

上ニ同ジ。

神社

八幡社

除地二千坪三村ノ巽ノ方ニアリ。社傳ニ云

神躰ハ長元三年源頼信感得ノ像ニテソレヨリ

頼義義家ニ傳ヘ其庶流荏原義宗ニ傳ハリシニ

文永年中靈夢ノ告ヲ得テ日蓮上人ヲ請シテ當

社ヲ勸請スト本社三間ニ二間拜殿五間ニ三間

拜殿ト表門トノ中間ニ鳥居タテリ

妙見堂 境内アリ。二間ニ九尺

毘沙門堂 三間ニ二間。倉守稻荷ヲ配祀ス

別當法蓮寺 本社ノ南ニアリ。法華宗。池上本門

寺末。八幡山上號ス。古ハ長林山ト號セシガ中

頃今ノ號ニ改メシト云。開基ハ越中阿闍梨朗

慶ナリ。朗慶ハ日朗ノ弟子九老僧ノ一人ニテ

モト荏原左衛門義宗ノ子ナリ。本化佛祖統記

九老傳ニ云。荏原義宗ハ源義家ノ遠孫ナリ。世

々武州荏原郡ヲ領シテ。此中延郷ニ居住セリ

エハニ荏原ヲ以氏トセリ。家ニ八幡ノ神像ヲ

藏セリ。カツテ其縁起ヲ作りテ其子朗慶ニ傳

ヘタリト。又高祖年譜ニモ。康元元年祖師鎌倉



二在レ時。武州人荏原義宗。池上右衛門大夫宗  
 仲等来リテ。檀越トナリシ由ヲ載タリ。然レハ  
 義宗日蓮ヲ崇信ノ餘。ツヒニ其子ヲ薙染セシ  
 ノテ。日朗ノ門ニ入レシナリ。後ニ義宗館地  
 ヲステ、寺トシ。八幡社ヲ造リ。朗慶ヲシテ別  
 當職ヲ務レシメトゾ。抑荏原氏ノ事ハ當國七  
 黨ノ内。猪俣黨ノ庶流ニモ荏原氏アリ。サレド  
 モ義宗ハ源家ニテ義家ノ末流ナリト云。時ハ  
 猪俣黨ノ荏原氏トハ自ラ別ナルベシ。今義家  
 流荏原氏ノ系圖ト云モノ世ニ傳ヘズ。又他ノ

記録ニモ所見ナケレバ。總テ詳ナルコトヲ知  
 ラス。

寺寶

太刀 二振

鍔 一具

指物 一本

古文書 二通

其文中解レ難キコト多アリ。平康云云コレ  
 康平ナラン。且平康ヲ訛リ記セル如クアリ。

武州江原郡千束郷中庭村八幡宮者。



源家重代相傳之大菩薩也。

今度奉日蓮聖人請。當地之令鎮守  
勸請者也。

一先祖御筆跡之內書拔八幡大菩薩之  
緣起留置者也。

一賴信公御筆云。去寬仁年中蒙不思儀之  
靈夢。則奉得木像八幡恒崇敬之。若惡友

令知善友。誠靈驗不可勝計云々。

一亦云長元四年辛未七月上旬比。嫡男賴義

又子共同蒙夢想。不思儀哉之不果。於真觀

忠常兵威強。而平直方。七依無功。召取。甲斐守

賴信命。ノ故。東。既。終。討。之。兵。果。ノ。如。夢。想。又

子。若。高。名。得。多。之。云々。



一賴我公御筆之史八幡大菩薩下者。泰王  
王城 鎮護宗廟殊更源家崇敬靈神也。  
今木像先年奉得弱應事難勝計。  
又奉我場所持軍功支父子若、數度也。  
實、我孫子可貴可崇敬。嫡子我孫讓之者也。

長治二乙酉八月日

一又云。天嘉五年比賴時其子貞任。殘堂  
聚合我。此時賴我嫡子義家公。彼八幡  
大菩薩祈誓請懷中ノ防我父。子若、如意ノ  
國府歸也。此時歎味方義家武勇將八幡太郎傳  
一義家公御筆云。又賴我公與我合我。從永承  
五年平康五年迄十年及。其内園東  
武士振威事。誠以奉懷中八幡大菩薩之



靈驗也。擁護不可勝計。難宣言名之。

寬治五年十二月日

一私之。賴信賴義公。今年近百八十余年。以來。惟為重代相傳。任瑞夢舊跡。奉勸請之。固土泰平。源家天下安穩。子孫繁昌。祈者也。粵先祖賴義公舊跡。勸請之。

竊因八幡宮。豈有勝於哉。彼外宮此者。因之。

文永十年癸酉八月十日

江原左衛門義直

越中阿闍梨讓之

讓狀

武州江原郡奉勸請八幡宮者。先祖重代



相傳之大菩薩也。去文永年中。慈父  
 在河入道義宗。我師日蓮上人聚  
 約。尚地勸請給也。彼意趣書源家代之  
 御一紙九衛門尉筆一紙日蓮上人御勸  
 請之御本尊幅  
 右者奉八幡御宝殿收者也。後代孫相遠

有河浦所也。

永仁二年

午五月十日

越中石署梨



妙見社 除地 字南耕地ニアリ。本社三間ニ二間。弘  
 治ノ頃總及千葉家ノ一族。鎮木外記憲實ト云モ  
 ノ當所ニ居宅ヲ移セリ。然ルニ妙見ハ千葉家世  
 世ノ鎮守ナレバ。コ、ヘ勸請セリト云。時ニ弘治  
 二年正月元日ナリ。社地ノ内大松ニ株アリ。園各



一丈八尺餘。古キ社地ナルコト知ラル。前ニ鳥居  
ヲツツ。近キ頃鐫木外記ガ子孫某。社頭ニ碑ヲ建  
テ勸請ノ来由ヲ勒ス。

舊家

百姓利兵衛 總州千葉家ノ庶流鐫木氏ノ裔ナリ。  
家ニ系圖ヲ藏ス。其畧ニ云。鐫木四郎胤憲ハ。千葉  
四郎守胤ノ養子ニシテ。實ハ上杉右京亮憲忠カ  
ニ男ナリ。文明十八年相州鎌倉山内ニ於テ生ル。  
ハレノハ下總國寒川ニ住レ。後同國鐫木村ニ轉  
ジ。是ヨリ世々鐫木ヲ氏トセリト云云。今按ニ上

杉憲忠ハ。享徳三年十二月廿七日。鎌倉西御門ニ  
テ害セラレタリ。ソレヨリ文明十八年一テハ其  
間三十五年ヲ隔テタリ。系圖ニ載タル所傳聞ノ  
タガヒアルベシ。又同系圖ニ。天文七年十月七日  
小弓御所義明。北條氏綱ト國府臺合戦ノ時。胤憲  
義明ニ從テ戦死ス。其子親次入道。孫ノ外記守憲。  
父子民間ニ漂泊セシガ。親次没後。弘治元年其族  
鐫木藤左衛門。友人飯室雅樂。鈴木源左衛門等ト  
共ニ當郡大井郷不入讀村。今ノ不入斗村邊ニ移  
リ住セリ。同二年北條氏康ガ家人大道寺駿河守







福木卯辰

刀

下坂ノ作。長二尺一寸。幅一寸。

一口

短刀

一口

宇多國宗ノ作。長一尺二寸五分。幅一寸。

鎗

三筋

一ハ長五寸。河内守國助作。一ハ長七寸五分。

一ハ五寸。共ニ無銘ニテ。何レモ直鎗ナリ。

長刀

一振

長一尺七寸。幅一寸二分。銘ニ因州住兼光トアリ。



碑文谷村

碑文谷村ハ。萱苜庄ニ属セリ。村内鎌倉古街道ノ傍ニ。梵字ヲ刻セシ古碑タテリシ。エハニ此名起レリト云。其碑七十年前ニテモ存セシカド。屢崇ヲナセシトテ。恐レテ土中ニ埋メシトゾ。ユハニ其文字ハ傳ヘズ。或ハ云昔忠玄ト云法師。天率都婆ニ碑文ヲカキテ此地ニ埋メシユヘナリト。何レカ是ナリヤ。其地ハ大抵郡ノ中央ニアリテ。江戸ヨリ二里半ノ行程ナリ。家數二百軒。東ハ下目黒村。及ヒ戸越村ニ



接シ。南ハ馬込村ニ隣リ。西ハ衾村馬引澤村等ニ續  
キ。北ハ上中目黒ノ二村ニ及ブ。東西一里南北十八  
町。陸田多クシテ水田少シ。土性ハ黒野土ニシテ子  
バリナシ。殊ニ天水ヲ用ヒテ耕種スルユヘ。動スレ  
ハ早損ヲ患フ。村内三條ノ往還アリ。其一條ハ丸子  
道ト呼ブ。北ノ方上中目黒村ノ界ヨリ。南ノ方馬込  
村ノ方へ貫ケリ。一條ハ品川道ト云。是ハ丸子道ノ  
岐路ナリ。村ノ中程法華寺ノ前ニテ分レソレヨリ  
北ノ方戸越下目黒ニ村ノ境ニ達ス。モトヨリ丸子  
道ノ岐路ナレバ。通ジテ丸子道トモ呼リ。一條ハ二

子道ト云。東ノ方下目黒村ノ界ヨリ。丸子道ヲ横ニ  
夕子テ。西ノ方衾村ニ達ス。當村古ノ事ハ定カナラ  
ス。御入國ノ後ヨリ芝増上寺。及ヒ村内法華寺領  
ト。神谷縫殿助ガ知行トナリテ今モ替ラズ。

小名

子、神、村ノ南ノ方ナリ。  
中、丸、前ニ同シ。  
小、六、山、東南ノ方ナリ。小六トイヒシモ  
ノ住居シタル所ナレバ。此名アリトゾ。  
其詳ナルヲ知ラス。



松<sup>マツ</sup>下<sup>ノ</sup> 小六山ノ側ヲ云。

本<sup>ホン</sup>郷<sup>ノ</sup> 西ノ方ナリ。

殿<sup>テン</sup>山<sup>ノ</sup> 前ニ同ジ。

猪<sup>イノ</sup>久<sup>ク</sup>保<sup>ボ</sup> 前ニ同ジ。

小<sup>コ</sup>十<sup>ジュウ</sup>べ<sup>ベ</sup>郷<sup>ノ</sup> 前ニ同ジ。

臺<sup>ダイ</sup>ノ口 是モ西ノ方ナリ。地形ウツダカキ

處ナリ。

安<sup>アン</sup>藤<sup>トウ</sup>山<sup>ノ</sup> 是モ同所ナリ。昔安藤某ト云モ

ノ住シ處トゾ。

唐<sup>カラ</sup>崎<sup>サキ</sup> 北ノ方ナリ。

五本木所 目黒村五本木ノ界ヲ云。

三<sup>サン</sup>京<sup>キョウ</sup>塚<sup>ノ</sup> 西南ノ方ナリ。塚ノ數三アルニ

ヨリ。カク唱フトゾ。或ハ三合塚トモ呼

リ。モト塚ノ名ナレドモ。土人イツトナ

ク此邊ノ字トセシトゾ。

下山 村ノ中程。法華寺ノ東ヲ云。

南<sup>ナン</sup>原<sup>ノ</sup> 法華寺ノ東南ノ方ナリ。コハニホ

ウカイ塚ト稱スル塚アリ。エヘニ此邊

ヲ通ジテホウカイ塚トモ呼リ。塚ノ條

見合スベシ。



水利

品川用水 村ノ北ヲ流ル。馬引澤村ヨリ入戸越村  
へ通ス。

池ニヶ所 一ハ村ノ北宇山谷ニアリ。其廣ハ七八段  
許ナリ。一ハ村ノ中程宇池ノ上ニアリ。四五段ノ  
池ナリ。何レモ水ヲ湛ヘテ。旱魃ノ時ノ備トスル  
モノナリ。土人呼テ溜井ト稱ス。

神社

八幡社 九除地五十坪五百西北ノ方ニアリ。銅像ノヨシ  
云傳フレド。秘シテタヤスク扉ヲ開クエトナリ許

サス。相傳フ畠山重忠ノ守本尊ニシテ。軍陣ニ臨  
ム時ハ冑ノ立物ニ付シ像ナリト。後ニ其家人宮  
野友右衛門ト云モノニ預ケ置シヲ。重忠討死ノ  
後。此地ニ勸請シテ。八幡ニ祀リシトゾ。其年代ハ  
詳ナラス。本社ニ間四方。拜殿モ同シ大サナリ。社  
前ニ町半許ヲ隔テ。石階九級アリ。此間ニ鳥居ニ  
基ヲタツ。兩柱ノ間共ニ二間。

末社

稻荷疱瘡神辨天合社 本社ニ向テ右ニアリ。小  
祠ナリ。



第六天社二 一ハ本社ノ前ニアリ。一ハ本社ノ側ニアリ。共ニ小祠。

別當神宮寺 本社ニ向テ左ノ方ニ住ス。天台宗。

法華寺ノ塔頭ナリ。本尊阿彌陀如来ヲ安置ス。

鬼子母神社 除地 村ノ西南ノ方ニアリ。小山村摩

耶寺持。

第六天社 除地 村ノ南ノ方ニアリ。是モ同寺ノ持

ナリ。

稻荷社 除地ニ 第六天ノ南ノ方ニアリ。百姓持。下

ニ社持同ジ。

稻荷社 除地ニ 村ノ西ノ方ニアリ。

稻荷社 除地ニ 村ノ東ノ方ニアリ。

寺院

法華寺 境内除地三萬坪村ノ中央ニアリ。仁壽三年

慈覺大師ノ開基ニシテ。寶善院ト稱セリ。其頃ハ

天台宗ナリシトゾ。此後ノ事モ古キ世ノ事ナレ

バ。傳ヘテ失ヘリ。ツレヨリ年歴ヲ經テ。弘安六年

日蓮上人ノ中老。日源上人此地ヲ過テ。時ノ住僧

ト法問ニ及ビシガ。日源勤テ辨折セシニヨリ。住

僧論屈シテ。終ニ法華ニ歸シ。日源上人ヲ推テ開



山トシ。山號院號トモニ舊ヲ捨テ妙光山吉祥院  
ト號シ。寺號モ今ノ名ニ改メシトゾ。是ヨリ後ノ  
事定カチラズ。今ノ如ク寺領十九石ノ御朱印  
ヲ賜ハリシハ。御入國ノ頃ニヤ。中項事アリシ  
故。其年歴ヲ詳ニセズ。第十四世日禪上人。本門寺  
ノ方丈日樹上人ノ教ヲ守リ。不受不施ノ法ニ固  
執シ。朝憲ニツレケルニヨリ。寛文七年四月二日  
佐渡國へ配流セラレシカド。寺ニハ子細ナカリ  
キ。後第十八世日附ノ時。妙榮尼トイヘル尼ノ事  
ニツキ。破戒ノ罪ニ坐シテ。八丈島へ遠流セラル。

時ニ元禄十一年九月十三日ナリ。此時同罪ニヨ  
リテ。遠流セラレシモノ。谷中感應寺以下數ヶ寺ニ  
及ビシガ。或ハ其寺ヲ廢セラレ。或ハ改宗セシメ  
ラレシニヨリ。當寺モ舊ニ復シテ天台宗トハ十  
リ又。コノ時住持トナリシヲ慶尊ト云ヘリ。コレ  
天台ニ復セシ始ナレハ。今モ是ヲ中興ノ開基ト  
セリ。慶尊ハ享保十六年二月十八日示寂。當寺ニ  
昔ヨリ持傳フル文書五通アリ。其文左ノ如シ。

寺家ノ事。法設法ノ事以下ニ



〃〃〃〃。再中門寺と相隣候。且〃以後  
 河池と花角ふ〃〃〃〃。第一遠近  
 方有〃〃〃〃。加扶助也。為〃水  
 代澄状如伴。

天文十七年

世田谷吉良氏

九月二十日左兵衛佐頼貞 印

碑文  
 法花寺

按ニ此華押ハ。頼貞弟頼康ナリ。殊ニ頼貞ハ戊申  
 ノ年ヨリ廿年前。大永五年既ニ卒ス。想フニ左兵  
 衛佐頼貞ノ六字。後人ノ書加ヘシ所ニシテ。モト  
 押字ノ記セシナラン。

一 寺家中人足出古事。



一 竹木さうりぬり。  
 一 桑栝の下の樹木ぬり。  
 築日々以厚ふてまろしき也。  
 万一遠祀業みくしき。急いで  
 下は披あ。ゆは日修状如件。

世田谷  
 吉良氏印下同



未  
 二月十日

法花寺  
 前法中

碑文若法花寺。の門前屋敷。  
 法界協と原七所四方不入。







右條之世之信以託其於遠  
祀之崇之忽可被其靈解也。

太閤秀吉印

天正十八年四月日



山交書抄取若以存案之

一 貴山世住し高田寺に任承於

堪法華寺也。貴首職也。自其  
方慈聖次身也。異義之入院也。  
一 其碑文石不受不施管中不受不  
施之立身。成以了。又其先規之  
法華寺也。末寺也。  
一 修理料也。大卒以倉之十為  
之分所也。  
一 為不忘旧好。為年一礼坊中人



毎年七送金上りあり。

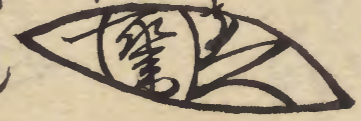
一寺寺於江戸通所あり。

去何時もて被宿坊あり。

寛文五年己二月九日

谷中感徳

日純



本圀院  
大圀院

碑文谷法存

日祿尊所

并御衆法中

總門 兩柱ノ間九尺。門ノ内外ニ石階五級アリ。

二玉門 總門ノ内十五六歩許ニアリ。四間ニ三

間。左右ニ金剛ノ像ヲ安ス。此像ハ安阿彌快慶

ノ作ナリ。普通ノ像ヨリハ甚瘦テ古色殊勝ニ

見ユ。長五尺餘。靈驗アラタナリトテ。參詣ノ人

宿願ニヨリテ通夜スルモノモ多シ。前ニ石階

アリ等數五級。

釋迦堂 二玉門ノ正面ニアリ。三間ニ四間。四方

ニ欄干アリ。イト古キ堂ナリ。相傳フ飛驒ノ番

匠ノ作ナリト。本尊ハ坐像ニテ長二尺餘。作シ



ヲ入。

鐘樓 釋迦堂ニ向テ右ニアリ。二間四方。鐘ノ徑三尺。高五尺。寛永廿年ノ銘ニテ。題目及ヒ宗祖ノ名ヲ刻シ。武州荏原郡碑文谷。妙光山法華寺常住寄附日長ノ數十字ヲエルノ也。

九輪石塔 鐘樓ノ側ニアリ。法華宗ノ開基日源上人ノ塔ナリ。銘文ヲ刻ス。其畧ニ云。夫源高師者本為天台之學頭。居于駿州實相寺。吾元祖大師重入大藏時。即信伏而師事二十餘載矣。當山元是台流。弘安六年亦歸于師。改予舊執于妙光

山法華寺。住三十二暮。自正和御六家之古至寛永御追貴之今。凡三百又二十四歳。石廟未有之。惜哉。寛永第十三丙子曆。秋八月吉日。願主日瑞ト刻ス。

歴代墳墓并古碑 門ヲ入テ左ノ方ニアリ。法華宗ノ頃第二世ヨリ十七世ニテノ墓石ナリ。此外ニ古碑正和ヨリ天文ニ至ルニテノ年月ヲ記セルモノ總テ十基アリ。何レモ法謚等ヲ載セザレハ。何人ノ墓ナルヲ知ラス。

伊賀并隼人墓 碑面ニ全忠全義ト彫ル。コレハ



法謚カ。或ハ其忠義ノ徳ヲ表セシカ。今ヨリ知  
ルベカラス。又昭ニ加藤信重同信政任二代。天  
正十八次庚寅歳二月廿六日トエル。此外ニ此  
人ノ主加藤氏ノ墓モ見エタリ。主人ノ墓地十  
レハ傍ニ伊賀井ヲ葬リシニヤ。加藤氏ノ事ハ  
郡内上目黒村ニ見エタリ。

聖観音堂 門外ニアリ。門ニ向ヒテハ左ノ方十  
リ。二間半四方。本尊二尺五寸。木佛ノ立像ナリ。  
古ハ百観音ヲ安置セシガ。イツノ頃ニカ浅草  
ノ泉涼院へ移シテ。中尊一軀ソニ遺レルモノ

此本尊ナリト云。

塔頭

神宮寺 村内八幡ノ別當ナレバ。詳ナルコトハ  
ソコニ出ロリ。

舊蹟

法問塚 字南原ニアリ。村内法華寺ノ開山日源上  
人。昔此地ニテ法問アリシユヘ名トセリト。又土  
人ニトヘバ。ホフゲ塚トイヒテ。文字ハ法解塚ト  
カゲリト。法華寺ニ蔵スル天正十三年ノ文書ニ  
モ。法界塚ト書タレバ。別ニ故アリトモ見エタリ。



其正レキ事ヲ詳ニセス。

舊家

百姓友右衛門 宮野氏ナリ。先祖ハ畠山重忠ノ家  
人ナリシガ。重忠討死ノ後。當所ヘハ幡ヲ勸請シ  
テ社事ヲ司リシトソ。重忠秘藏ノ甲冑弓箭及ヒ  
古文書ナトヲ持傳ヘテ。常ニ社内ヘ収メ置シガ。  
村内ニ宗論アリシ頃。其騒動ノ紛レニ何者カ又  
スニ忝シト云。宮野ト云氏モ重忠ヨリ賜ヒシト  
モ。又社事ニ預ルユヘ宮ノ何某トイヒテラハセ  
シヲ。イツトナク氏ノ如クニナリシトモ云。今ハ

社務ヲ別當寺ヘ譲リテ平民トナレリ。



